

“くらしの足を地域で支える”

テーマ：～湘南地区の交通を考える勉強会～

“くらしの足”を地域で支える
～湘南地区の交通を考える勉強会～

“おでかけは人を元気にする”を合言葉に、住民が自分たちの手でバスを走らせる「菊名おでかけバス」の方をお迎えして、実現に至るまでのプロセスをお聞きします。興味ある方はぜひお気軽にご参加ください。

3月10日(日) 10:00～12:00
場所：コミュニティセンター湘南 1階第1会議室

●ゲスト：清水 弘子 さん(コミバス市民の会・地域公共交通マスター)
鎌谷 隆 さん(コミバス市民の会 世話人、ボランティアドライバー)

菊名お出かけバスとは
「コミバス市民の会」が地域の協力により運行するコミュニティバスです。コミバス市民の会の会員になることで、どなたでも利用できます。毎週火曜日、1日6便の運行で、運転手とともに、介助者も助手席に同乗。(運行で使用している日人乗りワゴン車は地域の方から借りています。)荷物を持っている人や足腰の悪い人の乗降を手助けする役割を担います。住民のニーズに合わせてきめ細かいルート設定。地域の足であるとともに、一緒になった人と顔見知りになれる「ちよとした社交の場」にもなっています。

主催：湘南地区まちぢから協議会
共催：(特非) NPO サポートちがさき、(特非) まちづくりスポット茅ヶ崎

本日開催！

日時：平成 31 年 3 月 10 日 (日) 10:00～12:00

場所：コミュニティセンター湘南 会議室

主催：湘南地区まちぢから協議会

共催：NPO ちがさき。まちづくりスポット茅ヶ崎

参加者：湘南地区自治会（中島、ベルパーク、エクシード、グランヴァーグ、柳島、松尾、浜見平団地）

民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、ボランティアセンター
市社会福祉協議会、茅ヶ崎市民自治、翔の会（社会福祉法人）他
まちぢから協議会（後藤会長他）、NPO サポート茅ヶ崎（松永様）
まちづくりスポット茅ヶ崎（入井様他） 他

講師：清水弘子様・・・地域公共交通マスター

1. 後藤会長挨拶

湘南地区においても交通不便地域の解消のための現状調査、視察を含めた勉強会を行っていま

す。

ボランティア活動による課題も多く、本日は横浜市港北南部（菊名）での活動を成功、維持されている事例について講師を迎えて勉強会を行いたいと思います。

また今後「翔の会」の協力も得ながら実現に向けて本日列席頂いた皆さんと共に活動を行って参ります。

2. 活動経過報告・・・まちづくりスポット茅ヶ崎、入井様



○湘南地区の交通移動に関する調査について

湘南エリアでは浜見平団地の建て替えを中心に変化し、その中で地域の交通改善に向けた取り組みが必要となっている。

○現状の把握と今後の課題解決に向けての基礎調査を行った。

アンケート調査結果

実施方法・・・アンケート表の配布（できる限り対面で聞き取り）

調査機関・・・平成30年11月中旬～平成31年2月末日

調査場所・・・BRANCH 茅ヶ崎2、湘南地区シニアサロン、まちスポ茅ヶ崎、コミセン湘南、子育てサロンカンガルー、地区民生委員児童委員協議会、ボランティアセンター湘南、浜見平保育園地域育児センター

サンプル数・330

①、公共交通不便地域（買い物等不便） ～中島、柳島の現状～

中島、柳島（エリア西側）は移動手段や商業、医療施設が少ない。

*バス停、スーパーまでの距離・・・徒歩10分以上・・・全体の2倍以上

*スーパーまでの距離・・・徒歩10分以上・・・全体の8割超

*移動手段で日常生活で現在不便を感じている・・・全体の約4割

現在と将来の不安を感じると答えた人・・・全体の約8割

②、浜見平団地シニア層（70代以上）について

*シニア世帯が全世帯の45%、を占める

- * シニアの世帯構成・・・「単身」世帯が4割+「夫婦世帯」=80%になる
- * 普段の買い物、通院等の移動手段・・・徒歩での買い物が全体の倍近くになっている。
- * 日用品以外の買い物・・・・・・・・・・路線バス利用が4割（重要な足）
- * 買い物で困っていること・・・・・・・・・・重いものを持つのがつらい、安心して自転車に乗れない、近くに店がない、安心して歩けない等。
- * 自由回答・・・足腰、体の不安から移動が困難、バスの本数増便、私立病院へのバスが欲しい。バス料金の半額、無料化実現、ライドシェアの実現、スーパーが配達して欲しい、その他

3. 講演：地域で支え合うくらしの足 ～コミバス市民の会の取り組み～

- 講師・・・清水弘子さん（コミバス市民の会・地域公共交通マイスター）
坂道など交通が不便な地域に対して改善策をアドバイスする。
大和市のりあいバス運行までの支援、菊名おでかけバス運行を支援。



①菊名おでかけバスの始まりと推移

- 1998年・・・「コミュニティがコミュニティバスをつくる。コミュニティバスがコミュニティを作る」を合言葉に取り組みが始まった。
- 2004年・・・第1回試運行、ワゴン車を使ってボランティア運行。
- 2005年・・・第1回ワークショップを開催。
- 2006年 2008年・・・市営バスを借り上げ運行を委託、無料バスとして運行。
- 2009年：第2回ワークショップ開催、約1年議論を経て継続を視野に再運行。
- 2010年：バス借り上げ・イベント的運行から市民による運営・運行の選択
9月1か月間の試運行、Iコース9km、日常の生活の足へ。
- 2011年：週1日火曜日5便、2018年以降7便へ、運転者・添乗者・運行管理者すべてボランティア、1月スタート集会、1年間継続した試運行。
- * 継続しなければ「地域に必要」な交通にならない。

②おでかけバスの運営・・・コミバス市民の会組織図別紙

- * コミバス市民の会の1事業として運行・・会員交流、イベント開催等。
- * 安全管理、運行管理者の役割・・車両提供者の保険を利用確認。
- * 添乗者の役割・・運転者は運転に集中のため会員対応、時間管理等を行う。
- * 運営費・・年会費 1,000 円、協賛金、助成金、
活用・・ガソリン、事業の運営費、交通費、会報資料の印刷他。
- * 利用実績・・1日の乗車人数 2011年8,1人、2017年22,1人、2,018年30人に
迫る

- ③ コミバス市民の会の活動・・おでかけバスの運行、昼食会・花見バス運行、
地域探訪会、地域歴史勉強会、成年後見制度の学習会他。
- ④ おでかけバスの今後・・運行の継続、地域探訪会の充実、高齢者の外出機会の創出、
おでかけ情報誌との連携、車両の安定確保、運転研修の独自開催
～地域と一緒に課題解決～

○質疑応答

- Q これからの活動は？
⇒車両の安定確保・（3～4団体でシェアできないか検討中、運転研修の充実）
これまで継続できた理由・楽しいから、負担（運行日増）のない活動。
- Q 介護者（添乗者）のいる理由は？
⇒運転者の負担削減、車内の楽しい雰囲気作り（サロン、交流の場）。
- Q 運転者の募集は？
⇒70歳以下（記憶力、動体視力の低下、）ロコミ+祭り等での声掛け、
活動の内容に同調された人、広報その他
- Q 万一事故が発生した場合
⇒事故があった時のことを考えるより安全運転することを徹底する。
保険の中身を知っておくことも大事。
- Q 交通事業者との連携運行も考えたか？
⇒おでかけバスの在り方が交通事業者とマッチしそうにない。
「あいのり」が難しい（利用してくれない）。
乗りたい環境づくり・・乗用車×・ワゴン○。
利用者が長く乗れるように。
- Q 災害時の活用
⇒現在考えたことはない、依頼があれば考える。
- Q 週1回だと乗れる人が限定されるのでは？
⇒優先するのは継続すること。
みんなで一緒に作る(利用者が運行日、時間に合わせる)市民がやるメリット。
- Q ルートについて
⇒バス停でなくても柔軟に対応、過去にルートは何回も変更した。
乗降ポイント・・自治会長、住民等の意見を考えて決定。

その他活発な意見交換が行われ講師の清水さんも快く親切に答えて頂いた。



エクシード茅ヶ崎 原 脩